

# 人生羅針盤 ~ 『転ばぬ先の杖』

## 1. 家を建てるその前に

(1) これから日本はどうなるの? ~ その1

- ・ 少子高齢化、それは人口減少社会の到来 ~ すでに人口は減っている!
- ・ 社会構造の変化

自分の家を持ちたい、できればマンションよりも一戸建てが欲しい!

夢はどんどん広がります。

しかし、衝動買いをして後で後悔しないために今一度、冷静になって考えてみませんか?

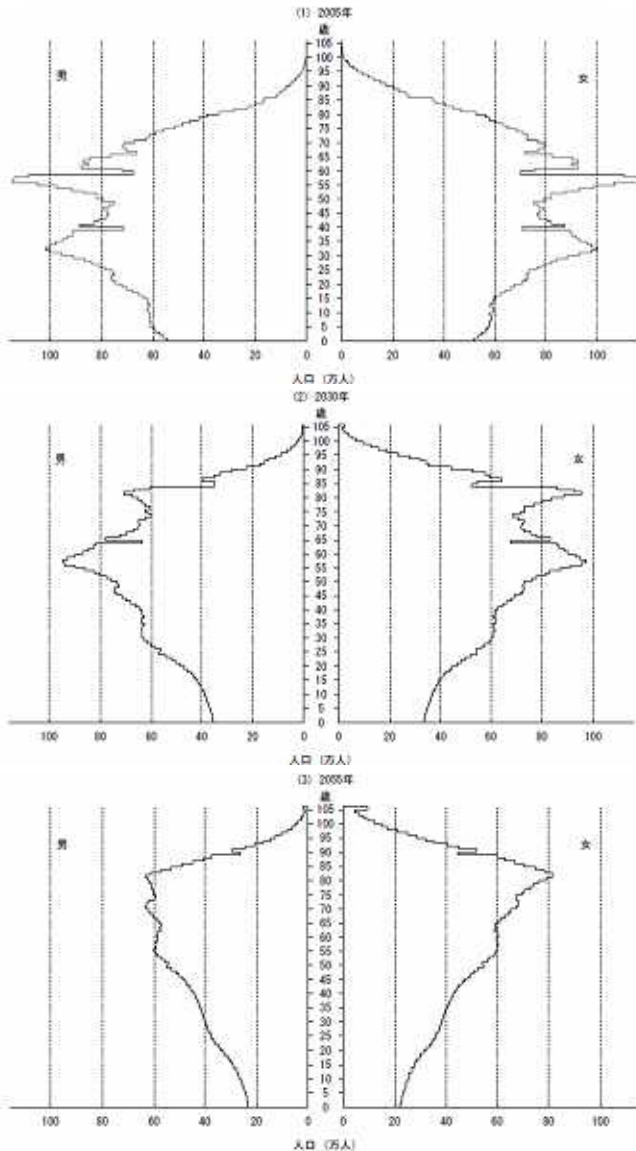
備えあれば憂いなし、さあ、マイホームの夢を実現するために『転ばぬ先の杖』を持ちましょう

第1回目は、これからの日本がどうなっていくのかを見ていくことにします。

[少子高齢化、それは人口減少社会の到来]

~ すでに日本の人口は減少している!

人口ピラミッドの変化：出生中位（死亡中位）推計



『日本の将来推計人口(平成18年12月推計)』(結果の概要)

「少子高齢化」という言葉をよく耳にしますが、実際にはどういうことなのでしょう?

左のグラフは上から2005年、2030年、2055年の日本の人口ピラミッドの推移の予測です。左側が男性、右側が女性でグラフの下から上にかけて年齢が上がっていきます。この資料は、【国立社会保障・人口問題研究所】から入手したのですが、一度ホームページをのぞいてみて下さい。

\* 日本の将来推計人口(平成18年12月推計) <http://www.ipss.go.jp/>

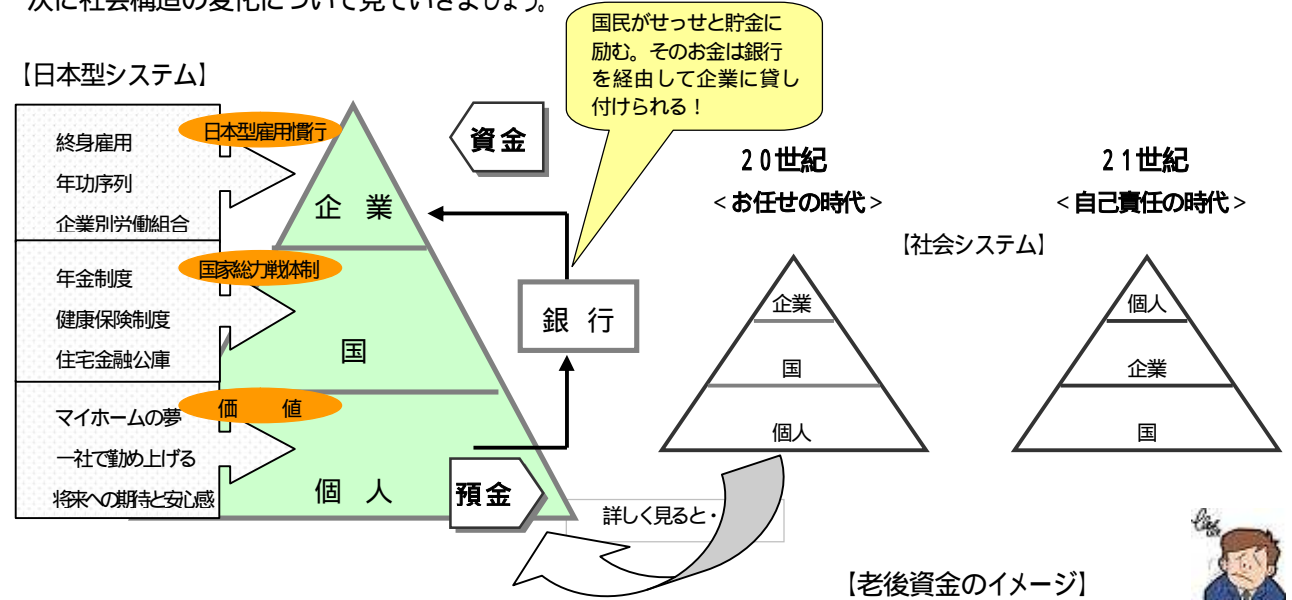
TOP ページの右側にある「人口ピラミッドの推移」(1930年~2055年)は、性別・年齢別の人口の変化がどのように変わっていくのかがよくわかります。(ホームページの小さなグラフの下の【イメージの拡大】をクリックしてみてください。)

人口のピークの年齢が少しずつ高齢化していき、65歳以上の方の比率は、2013年で4人に1人(超高齢化社会になる)、2045年で5人に2人となる、と予想されています。

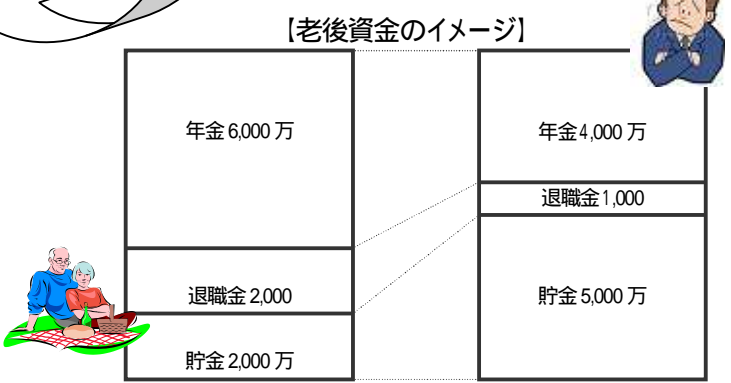
また、日本の総人口のピークも総務省の発表によりみると、2004年12月の1億2,783万8,000人だったということです。そして2005年以降、総人口は減少し始め、2055年には8,993万人になるということです。2005年版の通商白書で「第二次大戦後、世界有数の経済規模の国において、出生率の低下と高齢化によって継続的に人口が減少するといった事態に直面した例は見当たらず、我が国は今後、先進国の中で世界に先駆けて人口減少社会に突入することとなる。」と書かれています。

…コンビニへ行くと、お客さんもお年寄り、レジにいるお店の人もお年寄り、という場面が当たり前になるのかもしれないね。。。

[社会構造の変化] ~ 21世紀は「自己責任の時代」  
次に社会構造の変化について見ていきましょう。



老後資金は・・・  
 ・60歳に定年を迎えたとすると平均寿命の80歳までの第2の人生は20年・・・  
 ・ゆとりある老後生活を送るには、40万/月必要だと言われています。(年間約500万円)  
 ・よって、必要な老後資金は  
**約1億円!**



\*金額については、あくまでもイメージです。勤続年数や年収等によって年金の受取金額は異なってきますし、企業によって退職金の額も異なります。

20世紀は <お任せの時代> でした。  
 国はあらゆる面で企業を後押ししました。そして企業はその後押しを得ながら、その一方で人口の増加による十分な労働力の確保をし、企業の三種の神器と言われる、「終身雇用」「年功序列」「労働組合」という日本型の企業システムを構築しました。このシステムがうまく機能して高いモチベーションを持つ社員たちによって売上、利益を順調に伸ばしたわけです。そして1970年代後半には、[ジャパン・アズ・ナンバーワン]と言われたこともありました。  
 人々は文字通り「一所懸命」にひとつの会社で定年まで勤め上げました。給料も上がり、家電製品、車、住宅も手に入れ、豊かな時代を享受しました。そして定年を迎える頃には、住宅ローンの返済も終わり、預貯金に加え、退職金、年金があれば、豊かな老後を謳歌できる、そんな時代でした。

しかし、1990年のバブルの崩壊を機に時代はガラリと変化しました。20世紀最後の10年は、失われた10年と呼ばれたのは記憶に新しいところです。

そして21世紀は <自己責任の時代> となりました。  
 経済環境の変化だけでなく、少子高齢化による人口構造の変化が社会に大きな変化をもたらしました。企業も国も20世紀と同じように社員(国民)を手厚く支えることはできなくなってきたのです。それは退職金制度や年金制度の見直しに代表されますし、健康保険制度についても従来と同じような条件で維持するのが困難になってきています。それだけ国民の負担が重くなり、自己責任、自助努力の時代となりました。今後は、一層の家計の合理化や計画的な **家庭経営** が不可欠となるでしょう。

今回は、**超高齢化社会** についてもう少し詳しく見ていきたいと思います。

# 人生羅針盤 ~ 『転ばぬ先の杖』

## 1. 家建てるその前に

(2) これから日本はどうなるの? ~ その2

・ 検証! 超高齢化社会 ~ マイナス面だけなの? プラス面は?

自分の家を持ちたい、できればマンションよりも一戸建てが欲しい!

家を買ってよかった、そんなふうに思えるようにしっかりと準備をしたいものです。備えあれば憂いなし、さあ、マイホームの夢を実現するために『転ばぬ先の杖』を持ちましょう

第2回目は、これからの日本がどうなっていくのかをさらに詳しく見ていくことにします。

[検証! 超高齢化社会] ~ マイナス面だけなの? プラス面は?

	生産年齢人口 (15~64歳) を支え手とする		
	(a) 65歳以上を何人で支えるのか	(b) 70歳以上を何人で支えるのか	(c) 75歳以上を何人で支えるのか
平成17 (2005) 年	3.3	4.6	7.3
27 (2015) 年	2.3	3.2	4.7
37 (2025) 年	2.0	2.4	3.3
47 (2035) 年	1.7	2.1	2.8
57 (2045) 年	1.4	1.7	2.4
67 (2055) 年	1.3	1.5	1.9

平成 19 年版 高齢社会

まず、超高齢化社会のマイナス面の第一に考えられるのが経済への影響です。働く現役世代の人口が減ることによって経済成長率の低下が心配されています。

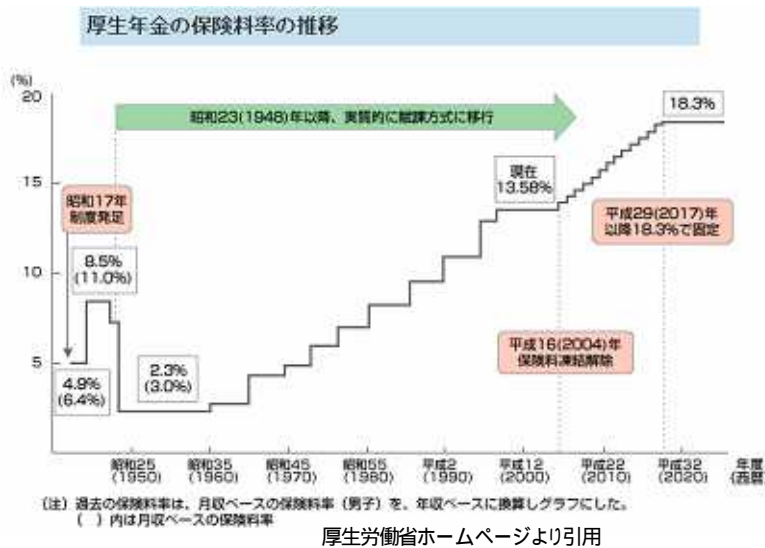
戦後の日本は、質の高い豊富な労働力と高い貯蓄率に支えられて、大きな経済的飛躍を遂げてきました。ところが、労働力については、少子高齢化の進展により、労働人口の減少を覚悟しなければなりません。また、貯蓄率についても、基本的には貯蓄を取り崩す層と見込まれる

高齢者が増加していくことから、従来のような高い貯蓄率を期待することは難しいでしょう。少子高齢化の進展により、戦後日本の高い経済成長を支えてきた重要な要素が失われていくおそれがあることを覚悟しておく必要があるのです。

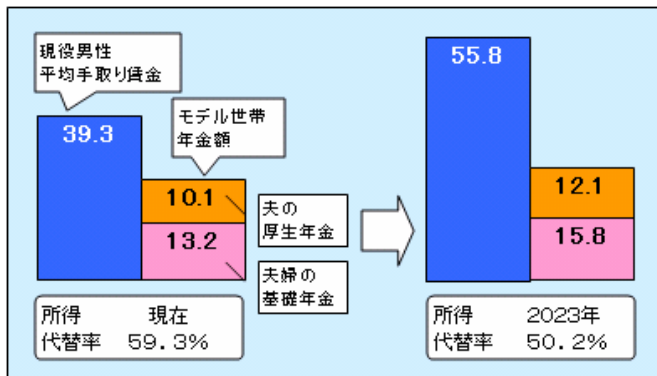
また、国民の生活水準への影響としては、人口に占める高齢者の割合が高くなり、年金、医療、福祉などの社会保障分野における現役世代の負担が増すことによって税・社会保険料を差し引いた現役世代の手取り所得の減少につながることで

厚生年金の保険料について見てみますと、平成16年から平成29年まで毎年0.354%ずつ保険料が引き上げられていくことが決定しています。

保険料の負担は、会社と社員で折半なので、社員負担分は年間0.177%ずつ引き上げられることとなります。年収600万円の方で単純計算してみますと、年間1万円ずつの負担増が平成29年まで続きますので、年収が600万円のままであれば手取り額が減り続けることとなります。では、老後に受け取る年金の金額はどうなっていくのでしょうか? 厚労省の「モデル世帯」の受給額で見えていくことにします。この「モデル世帯」とは、男性の平均的な賃金で40年間働いたサラリーマンの夫と、その間ずっと専業主婦だった同い年の妻の2人世帯です。



この夫婦が現在65歳だとすると、年金額は合計で月約23万3000円。内訳は、夫婦の基礎年金がそれぞれ約6万6000円、夫の厚生年金が約10万1000円です。一方、2023年度に65歳になるモデル世帯が受け取る年金の名目額は、同省の試算によれば月約28万円です。金額は増えていますが、この間、



厚生労働省の試算より。金額は月額で現役世代の賃金上昇を年2.1%と想定。

物価や現役世代の賃金が上昇し、社会全体の生活水準も向上します。

そこで、年金の実質的な価値を見る物差しが「所得代替率」です。これはその時代の現役サラリーマン男性の平均手取り賃金(賞与含む)と比べ、年金額が何%に当たるかを示したものです。

モデル世帯の年金額の所得代替率は、現在は59.3%。これに対し2023年度は50.2%。年金額の実質的な価値は15%程度目減りします。

次に超高齢化社会のマイナス面の第二に考えられるのが社会への影響です。単身者や子供のいない世帯が増加することによって社会の基礎的単位である「家族」のカタチが大きく変化することが考えられます。

また、子供への影響として、少子化による子どもの人数の減少により、同年齢の子ども同士や違う年齢の子供同士とのふれあいの機会の減少、過保護・過干渉などにより、子どもの社会性が育まれにくくなることも考えられ、子供自身の健やかな成長への影響が懸念されます。

このような子供たちが大人になった場合、さらに次の世代に様々な影響を与えることにもなり、少子化問題は子供の数の問題だけではなく、世代を越えて子供の質を変えていくことも考えられます。また、子供に及ぼす影響は、心に及ぼす影響だけではなく、身体機能面への影響も考えられます。兄弟や友達が少なくなったため、外で遊ぶ機会が少なく、塾通いやテレビを見たり、ゲーム機で遊ぶ時間が多くなっており、このことは生活習慣病の肥満にも関係してきます。

では、人口減少社会、超高齢化社会のプラス面はどうでしょうか？

少子高齢化、人口減少による最も大きなメリットは、人口過密に伴う諸問題の解消です。わが国においては、これまで土地・住宅問題が常に大きな課題として横たわっていました。高度経済成長の過程で土地の価格は右肩上がりでも上昇し続け、土地神話が形成されたのです。マイホームを買うことがサラリーマンの一生の夢となりましたが、やっと手に入れた住宅は、海外からはウサギ小屋呼ばわりされ、すし詰めの通勤電車に長い時間揺られる毎日。バブルの崩壊と共に、マイホームは以前よりも手に入れやすくなりましたが、総人口の減少により、都市圏を中心にわが国の大きな悩みであった土地・住宅問題は、これまで以上に緩和の方向に向かっていくものと思われます。



思えば、戦後のわが国には様々な「地獄」が出現しました。「通勤地獄」「渋滞地獄」「受験地獄」…。これらの多くは、人口が減少していけば自然と緩和されていく性質のものであります。また、環境問題も改善が期待されます。ゴミ、排ガス、汚水、いずれも量が多ければ環境に負荷がかかります。排ガス規制、水質規制といった様々な対策を講じたことにより、わが国の環境問題は、一時期に比べずいぶん改善されつつありますが、総人口が減少していけば量的な面で一層改善されていくことになるでしょう。

経済面においてもデメリットばかりがあるわけではありません。少子高齢化の進展によって経済活動影響が懸念されると言われますが、一面では、新たな産業が育ち、発展していくことが期待されています。シルバー産業がその典型例ですが、子どもを対象にする産業でも、保育所をはじめとする子育て支援産業などは、女性の社会進出の進展にあわせて成長していく可能性を十分秘めています。旧来型の産業においても、少子高齢化の進展に伴って大きな転換がもたらされる可能性があります。例えば、わが国の農業は、農家1戸当たりの耕地面積が狭く、それが大きな障害となって生産性も諸外国に比べると低いものでした。手厚い補助金や様々な規制の存在などの要因もあって、農地の集約化が進まず、農業従事者の平均年齢も、年々高齢化の一途をたどってきました。しかしながら、それもそろそろ限界に近づきつつあります。高齢化が進み農地を維持できない農家が増えているため、確実に農地の集約化が進みつつあるのです。少子高齢化が契機となって、長年の懸案であった農地の集約化が進展していく可能性が高いと言えます。



次回は、「ライフプラン～わが家の人生設計図」と題してお届けします。

\* 生命保険募集代理店 / 合資会社オフィス・ウノ / 三好義之

住所：明石市魚住町清水 2340-4-420 / E-mail：[miyoshi@office-uno.com](mailto:miyoshi@office-uno.com)

携帯：090-1963-5895

登録番号 SL 07-502-342

# 人生羅針盤 ～『転ばぬ先の杖』

## 1. 家を作るその前に

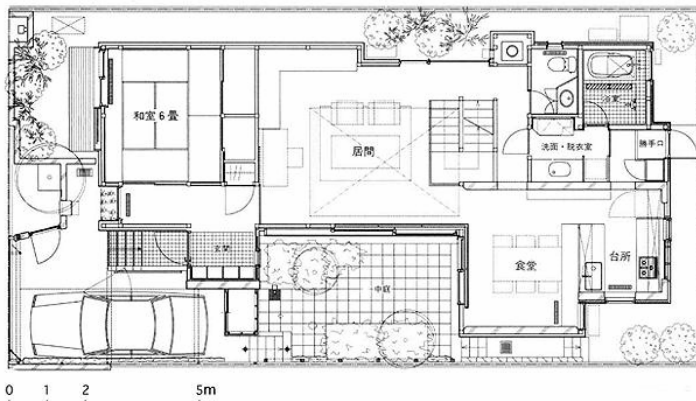
(3) ライフプラン ～ わが家の人生設計図/どんな人生を送りたいですか・・・

- ・ 家族構成
- ・ ライフイベント 例え、子供の進路は？ 教育費はいくらかかるの？
- ・ 収入
- ・ 支出

自分の家を持ちたい、できればマンションよりも一戸建てが欲しい！  
家を建てて本当によかった、そう思えるようにしっかりと準備しましょうね。

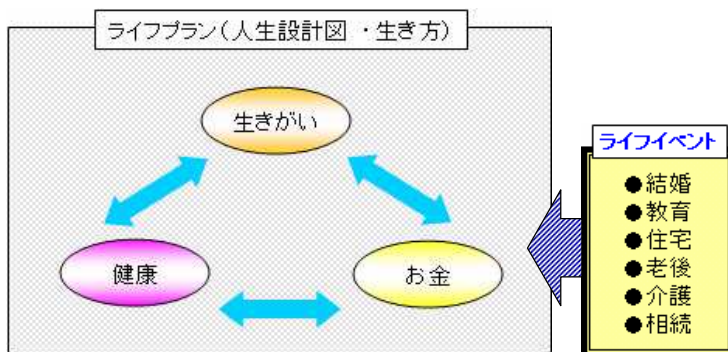
さて、第3回目は、ライフプランについてです。

自分の家を持ちたい、と考えるときには漠然とではあっても将来のことを考えているのではないのでしょうか？  
お子様のおられるご家庭であれば、お子様の進路、結婚などを思い浮かべることでしょうし、お子様がおられないご家庭でしたら、ご夫婦ふたりの今後の生活の行く末などをイメージされることでしょう。



そんなひとりひとりの思いを漠然とではなく、具体的に考えて整理してみたいかがでしょうか？ そうすることによって家作りのプランニングにおいても明確なイメージができ、また家作りを楽しむことにもつながります。

「ライフプラン」は、あなたの「人生の設計図」です。家も図面がないと建てることのできないのと同じように人生も行き当たりばったりでは安心して暮らせません。



人生を設計していく上で、考えなければいけないポイントは、いかにリスクをコントロールしながら夢を実現していくかということです。あなたは人生における不安やリスクという何を思い浮かべるでしょうか。年代によって違うかもしれませんが、誰にでも共通な不安としては、「経済的な不安」「健康に関する不安」

「孤独に関する不安」なのではないでしょうか。これらに対応するのが、「マネープラン」、「ファイナンシャルプラン」、「健康管理プラン」、「キャリア開発プラン」などです。不安を解消して幸せな生きがいのある人生を送ることができるように、また家族の夢を実現できるように「ライフプラン」を作るわけです。

上の図で生きがいをベースにした「人生設計図」に従って予算管理をしていくというのが「ファイナンシャルプラン」です。たとえば家を作るときは、住む人の希望を取り入れて図面をひき、予算のことに配慮しながら、どんな家を作るかを決めていくはずですが、それと同じように人生も、それぞれのご家庭の目標や夢に沿った設計図を描いて、その設計図に従って予算管理（家庭経営）をしていこうとするのが、「ファイナンシャルプラン」の基本的な考え方になります。

各年度ごとのライフイベントを押さえながら、収入と支出のバランスを計り、将来に備えて計画的な貯金をしていきます。このようにお金の流れを中長期的に捉えるのが **キャッシュフロー表** です。

●木村家のCF表(すべて仮称)

(夫：43歳・会社員・年収780万円、妻40歳・パート、長男：11歳、長女：9歳の4人家族)

名前・項目・物価上昇率	経過年数	現在	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後	6年後	7年後	8年後	9年後	10年後
	平成	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	西暦	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
年	太郎	-	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
	花子	-	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49
	拓也	-	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	紀香	-	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
イ	太郎	-			住宅購入		車買換					
	花子	-										
	拓也	-	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	大1	大2
	紀香	-	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
ト	家族	-								保険満期		保険満期
取	夫の給与収入	2.0%	608	620	633	645	658	671	685	698	712	727
	妻の給与収入	0.0%	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	夫の年金収入	0.0%										
	妻の年金収入	0.0%										
	その他の収入	0.0%								200		200
	Total		708	720	733	745	758	771	785	798	1,012	827
支	基本生活費	0.5%	240	241	242	244	245	246	247	249	250	251
	住宅費(家賃・ローン)	-	180	180	140	140	140	140	140	140	140	140
	住宅費(ローン以外)	0.0%			36	36	36	36	36	36	36	36
	保険料	0.0%	60	60	60	60	60	60	60	60	48	48
	教育費	0.0%	60	60	74	74	88	95	95	102	165	121
	その他の支出	0.5%	120	121	121	122	122	123	124	124	125	126
	一時的な支出	0.0%			1,000							
	Total		660	662	1,674	675	691	700	702	711	776	722
	年間収支		48	58	-941	70	67	71	83	88	237	105
	貯蓄残高	0.5%	1,448	1,514	580	653	723	798	885	977	1,218	1,329



お金さえあれば幸せか？ というそうではありませんが、ある程度の～それは人によって違いますが～お金がないと不自由な人生を送らざるを得ません。マイホームの夢をあきらめたり、経済的な理由で子供に大学進学を断念させたり・・・。

そうかと言って、いくらたくさん収入があっても浪費してしまえば何も残りません。標準的な収入でもメリハリを付けた計画的な出費を心掛けていれば、将来に対する備えもでき、幸せな人生を送ることも十分に可能です。

人生における3大資金、「教育資金」「住宅資金」「老後資金」はまとまったお金が必要となるだけにしっかりとした準備をしたいものですね。

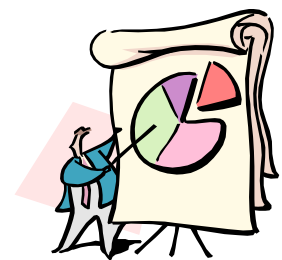
ライフプランに基づくシュミレーションにつきましては、下記のサイトが参考になります。

・YOMIURI ONLINE (読売新聞) > マネー・経済 > ライフプラン・シュミレーション

<http://fpweb.netpath.ne.jp/atmoney/simulation/lifeplan/lifeplan-input.asp>

・goo > マネー > 人生設計(ライフプラン) > ライフプラン・シュミレーション

<http://money.goo.ne.jp/lifeplan/index.html>



こんな感じで将来のお金のバランスを見ていくと計画的な貯蓄の重要性もわかってきますし、メリハリのあるお金の使い方ができるようになります。

しかし、10年、20年先の備えを考えるには、まず足元をどう固めるか、それは毎月の家計をどう運営していくか、ということになります。

今回は **家庭経営** についてお届けしたいと思います。



\* 生命保険募集代理店 / 合資会社オフィス・ウノ / 三好義之

住所：明石市魚住町清水 2340-4-420

E-mail：[miyoshi@office-uno.com](mailto:miyoshi@office-uno.com) / 携帯：090-1963-5895

登録番号 SL 07-502-343